

西諸県地域の普及活動

令和6年10月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 農業改良普及事業推進協議会幹事会及び農業経営指導士会合同の県外先進事例調査を実施

31日に農業改良普及事業推進協議会幹事会及び農業経営指導士会合同の県外先進事例調査を実施しました。

異業種企業の人材確保・育成や業務の改善等の取組を学び、今後の活動の参考とするため、霧島酒造株式会社とトヨタ車体研究所を視察しました。

霧島酒造株式会社は10代から30代の職員が8割を占め、飲みニケーション制度やKYODE制度（メンター制度。北諸弁で“兄弟”）等など職員の交流や教育についてユニークな取組を行っていました。

また、トヨタ車体研究所はリモートでの仕事が定着し、職員の3割が常に在宅で業務を実施しているなど、それぞれに特徴がありました。どちらの企業でも若手職員がライフバランスと仕事へのやりがいを求める傾向から、様々な資格取得支援や働き方の工夫を行っていました。

各企業の考え方や視点を参考に農業での人材確保等に活用していきたいと思えます。



【霧島酒造の関係者に質問する参加者】

2) 第65回宮崎県畜産共進会（肉用種種牛の部・枝肉の部）が開催

4日に、児湯地域家畜市場において、県域の第65回宮崎県畜産共進会肉用種種牛の部が開催されました。西諸県地域からは第1類に5頭、第2類に4頭、第3類に3頭1セットが出品され、第1類では、高原町のU氏出品の「ふたば233」号が優等賞首席、高原町のI. K氏出品の「ろおるぱんな」号が優等賞3席を受賞されました。

第2類では、高原町のI. A氏出品の「しあわせ8」号が優等賞首席、小林市のM牧場出品の「第156みよこ」号が優等賞4席を受賞されました。

第3類では、小林市野尻町のS氏出品の「ぺいぺい」号、小林市のM氏出品の「かおり」号、小林市のI. H氏出品の「こまち」号の3頭1組が優等賞2席を受賞されました。

また、肉用種種牛のグランドチャンピオンに第1類首席のU氏出品の「ふたば233」号が選出されました。

22日には、ミヤチク高崎工場において枝肉の部が開催され、肉牛枝肉の部において、小林市のI. M氏出品の「翼」号が特別賞（脂質賞）を受賞されました。



【肉用種種々の部 会場の様子】

3) 10月期子牛郡品評会が開催

8日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和6年10月期子牛郡品評会が開催されました。

10月13日から15日に開催される10月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た35頭が出品され、審査の結果、優等賞に7頭、壹等賞に17頭、弐等賞に11頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市のH氏出品の「いいかんじ」号（羅王45-真華盛-耕富士）、2席は小林市のF氏出品の「ひとみ」号（耕富士-安福久-百合茂）、3席は小林市のW氏出品の「ひとみ」号（二刀流-梅華国-勝平正）が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積豊かであり、輪郭鮮明との講評でした。

4) 第11回宮崎県ブラックアンドホワイトショウが開催

5日に、JAみやざき都城地区本部家畜市場において、第11回宮崎県ブラックアンドホワイトショウが開催されました。第1部から10部に県内3地域から93頭の乳用牛が出品され、西諸県地域からは18頭が出品されました。

第1部では高原町の合同会社I牧場出品の「SH759 エガンスレオ」号が、名誉賞首席を受賞されました。第6部ではえびの市のK氏出品の「SKリバーサムパーマー」号が名誉賞首席を受賞され、ベストアダーに選ばれました。両者は11月3日に熊本県家畜市場で開催される第8回九州連合ホルスタイン共進会への出場が決定しました。

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 第3回アグリ★レベルアップセミナーを開催

18日に、担い手の経営管理能力向上を目指した研修会を開催し、宮崎市木花のきゅうり農家であるN氏を外部講師に、労働力確保や従業員教育等の労務管理に関する講義を行いました。雇用する際に従業員が安心して働ける仕組みづくりや円滑なコミュニケーション方法について工夫をされており、参加者にとって、大いに学びになったようです。

管外の生産者の話を聞けることは貴重であり、農業者は講義の途中で質問等の意見交換を交えながら興味を示していました。

今年度計画したアグリ★レベルアップセミナーは全て終了し、来年度以降も、生産者の経営管理の意識向上を目指す研修会を計画していきます。



【講師と意見交換をしながらセミナーを熱心に聞く受講者達】

2) 就農相談会を実施

23日に、高原町で花卉生産を、25日に、小林市で露地野菜生産を希望する就農希望者の就農相談にそれぞれ対応しました。

引き続き関係機関と連携してご本人との協議を行い、就農を行うまでの問題の解決を図りながら、それぞれの就農開始までに認定新規就農者の認定を受けられるよう支援していきます。

※就農相談対応 2者2回

(内訳 小林市：露地野菜1者、高原町：花卉1者)

3) 新規就農者育成総合対策経営開始資金(旧：農業次世代人材投資資金)活用者の就農状況等の確認

22日に、高原町で経営開始資金等を受給する新規就農者2者に対して、県、高原町及びJAの担当者が就農状況の確認のための面談を行いました。

面談では、就農計画の達成状況を確認するため、経営収支は前年の決算書で、生産量は新規就農者が記録した野帳等で確認しました。また、就農後に出てきた新たな課題等について個別に聞き取り、解決策を検討しました。

今後も引き続き関係機関と連携し、経営管理や生産技術について適宜フォロー行うなど、就農計画実現へ向けた支援を行っていきます。(内訳 高原町：施設野菜2者)

4) にしもろサップ即売会を開催

17日に、SAP会員7名参加のもと、えびの市役所、小林市役所、小林総合庁舎、普及センターの4箇所において、にしもろサップの農畜産物即売会が開催されました。当日は、会員が生産した農産物を持ち寄り、市のSAP担当者とも連携しながら、自ら会場設営から販売まで行いました。販売開始直後に完売する商品も多数見られ、大盛況な即売会となりました。

今後も、にしもろサップ活動の自主企画等の支援を通じて、会員の資質向上や会員間の連携強化を見据えた支援を行っていきます。



【管内4箇所で行われた即売会】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) ミシマサイコ(薬草)栽培説明会を実施

3日に、JAこばやし三ヶ野山出張所において、ミシマサイコ栽培説明会を開催し、生産者10名(うち、新規希望者5名)、関係者11名(生薬メーカー、JA、小林市、総合農業試験場)が参加しました。

説明会では、初めに室内で栽培管理等に関する講習が行われ、終了後、近隣ほ場で現地研修を行いました。

今回参加した半数の生産者は、新規作付けを希望していることから、今後は関係機関と連携した支援を行って参ります。



【ミシマサイコ栽培説明会】

2) サツマイモ基腐病の発生状況調査の実施

28日に、JA担当者と連携して、管内の定点ほ場におけるサツマイモ基腐病の発生状況調査を実施しました。

調査は6月から実施し、今回の調査が最終となりましたが、今回もサツマイモ基腐病の発生は確認されませんでした。

今後は、関係機関と連携して次年度に向けた対策を検討する計画です。



【基腐病発生状況調査】

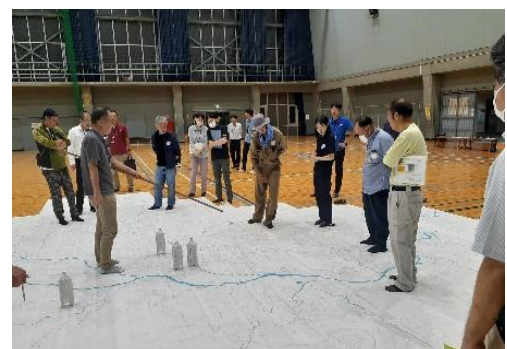
3) 西諸県西部農地集約分科会(西諸県地域の露地野菜の振興に向けた意見交換会)を開催

16日に、西諸県西部(西小林、えびの市)地区で露地野菜の営農を行う5法人を参集した農地集約分科会を開催しました。

巨大マップを各法人、関係機関で闊歩しながら意見交換を行い、2カ所のほ場の農地集約の可能性と、将来にわたる農地集約の有効性を確認することが出来ました。

各法人同士の繋がりを深めることで、互いの利益、地域経済の良いサイクルが生まれると感じられました。

今後も農地集約に限らず共通する課題解決を図っていきます。

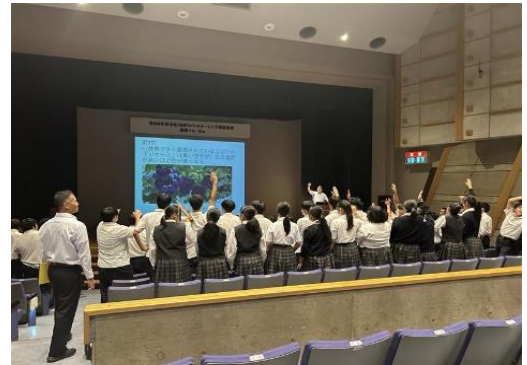


【農地集約の状況】

(適正な管理と飼料基盤に立脚した強い畜産経営体の育成)

1) JAこばやし青年部野尻支部勉強会が開催

23日に、小林市文化会館において、野尻青年部主催の勉強会が開催され、普及センターから講演を行いました。午前の部では青年部を対象に西諸県の土壌と堆肥について講演を行い、青年部から15名の参加がありました。積極的な質問があり、自給飼料生産への関心の高さが伺えました。午後の部では秀峰高校農業科の1～3年生を対象に西諸県の農業の魅力について、クイズを交えた講演を行いました。



【クイズに参加する高校生】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAこばやしきゅうり部会栽培講習会

4日に、小林集送センターにおいて、促成きゅうりの栽培講習会が開催されました。当部会では、アザミウマ類の防除として今作から天敵の利用を検討しているため、天敵を販売するメーカーから使用方法等について説明がありました。また、種苗メーカーからは前作での栽培の反省点の説明があり、今作の注意点を共有しました。

今作は定植時期に曇雨天が続くなどスタートから栽培が難しい状況が続いていますが、そのような中でも収量がしっかりとれるよう関係機関と連携して支援を行っていきます。



【メーカーからの説明を聞く生産者】

2) JAえびの市いちご部会栽培講習会

16日に、JAえびの市本店において、えびの市いちご部会栽培講習会が開催されました。まず普及センターから、今年の日候とそれに対応した栽培管理、病虫害の防除について説明を行いました。また、管内で導入が進んでいる天敵の使用方法について、天敵を販売するメーカーから説明があり、生産者からは積極的に質問がありました。

今作は育苗期の高温と定植時期の雨など栽培が難しい状況ですが、病気の発生等抑えられるよう支援を行っていきます。



【普及センターからの説明を聞く生産者】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 小林市果樹農業振興推進対策協議会役員会

2日に、普及センターで標記役員会が開催され、生産者4名及び関係機関2名が参加しました。県外視察について協議し、11月に岡山県のブドウ産地に行くこととなりました。8月にも訪問したところを再度見学し、収穫前の様子と収穫後の様子を見比べる予定です。今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

2) マンゴーの研修カリキュラム、収支モデルの作成

24日に、JAこばやし野尻支所で標記打合せを普及センター3名及びJA担当者1名で行いました。研修カリキュラムについては、内容別バージョンの他に、年表バージョンを作成し、農閑期のアルバイトや他品目作業の計画を立てやすくしました。また、収支モデルについて、樹を承継した場合、新植した場合の2パターンを作成しました。作成した研修カリキュラム、収支モデルは認定研修機関となるための手続きや実際の研修・就農の際に活用します。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) ラナンキュラス巡回支援の実施

先月から随時、西諸県地域のラナンキュラス切り花生産者9名と、球根生産者1名のほ場の巡回及び支援を行っています。

10月上旬から、定植が順次開始されておられ、球根の腐敗発生状況や初期の管理状況を調査しています。10月は曇天の日が多く、高温にならないことは良いのですが、急な晴れ間や高夜温もあり、光を好むラナンキュラスにとってはあまり良くない条件です。特に、定植後の温度管理などに留意して活着を促進し、初期生育が良好となるよう支援してまいります。



【生産者との意見交換】

2) 高原町花卉部会の定期巡回及び定例会が開催

24日に、高原町の生産者5名及び関係機関3名が参加し、巡回指導を行いました。キク生産者3戸のハウスは12月年末出荷型を中心に巡回を行い、生育状況と今後の管理について確認を行いました。一部8月お盆出荷作型の開花遅延の影響で定植が遅れ、消灯に至る草丈になっていないほ場があり、また害虫の発生で防除を多く実施しています。

定例会では、JAから情勢報告が行われ、12月年末出荷の状況や今後の市場の動向について説明されました。普及センターからは、冬期の準備について説明を行いました。

引き続き関係機関と協力し、部会の活動を中心に支援してまいります。



【会長の言葉を聞く生産者と関係機関】

3) JAみやざきこばやし花卉部会の視察研修が開催

30日に、鹿児島県枕崎市において、生産者4名及び関係機関3名が参加し、枕崎市の2名の大規模若手生産者の視察に伺いました。

枕崎市の生産者数は減っているものの面積を維持し、産地の団地化とともに後継者へのスムーズな継承を行っており、その取組について説明いただきました。まだ若手で計画的な経営を行い、規模拡大をしている法人の経営内容を中心に視察し、枕崎の生産者とJAこばやしの生産者が活発に意見交換していました。

今回は、夫婦そろっての参加であり、また枕崎の生産者も夫婦揃って経営主として経営を発展していることもあり、今回の視察を通して良い刺激になったと感じました。



【枕崎の生産者との意見交換】

(20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

1) 荒茶求評会の開催

1日に、西諸茶業青年会を対象に、秋整枝前の茶園巡回指導を実施し、生産者5名及び関係者4名（総合農業試験場（専門技術センター、茶業支場）、管内関係者）が参加しました。各茶園では、一番茶の安定生産に向けた秋整枝の方法や栽培管理全般の指導が行われました。

管内での秋整枝作業は、10月中旬頃から始まる見込みとなっています。



【茶園巡回指導】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) JAこばやしにら部会出荷講習会及び栽培講習会

23日に、小林集送センターにおいて、こばやしにら部会の出荷講習会及び栽培講習会が開催されました。今作は高温によりこれまで管内で見られなかった病気が発生するなど、生産者にとって栽培が難しい年となっています。そこで普及センターからは、病気の発生メカニズムや土壌消毒の有用性等について説明を行いました。土壌消毒は生産者から実施したいとの意見も頂いたので、来作に向けて消毒方法の指導などを行っていきます。



【JAからの情勢報告を聞く生産者】

2) 営農振興協議会野菜総合研修会

18日に、総合農業試験場において、営農振興協議会野菜総合研修会が開催されました。持続可能な農業の実現に向け、昨今の高温や曇雨天等の気候変動に対応した農業生産を行うため、県内の技術員が集まり優良事例の発表や新たな肥料・農薬の紹介がありました。また、当普及センターからは、促成きゅうりで行っている「ハウス内環境データを活用した生産者支援」について発表しました。今回の研修で得た情報は管内の生産者支援でしっかり活用していきたいと思えます。



【取組を発表する当普及センター職員】

3) 梨ぶどう園地台帳作成の打合せ

8日に、普及センターにて標記打合せを小林市役所、JAこぼやし担当者で行いました。梨ぶどうは直売所等での販売が多く、栽培状況の実態把握が難しいため、生産者への個別聞き取りを行い、把握する予定です。聞き取る内容は栽培面積や品種構成、後継者の有無等で、将来の産地規模の予測や事業承継も含めた地域内の施設の有効活用につなげます。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

4) 農業振興公社によるマンゴーハウス査定

25日に、小林市野尻町の第三者承継希望であるマンゴーハウスにて農業振興公社による査定が行われ、農業振興公社2名と普及センター5名が参加しました。農業振興公社はハウスや附属施設の導入年等の聞き取り、さび・汚れの状況の確認等を行いました。聞き取りから2～3週間後に金額が出て、普及センターを通じて生産者へ返却する予定です。査定したハウスの承継先は未定ですが、承継先が見つかった際の価格交渉の参考としてもらう予定です。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【マンゴーハウス査定を行う公社】

5) 第5回西諸県果樹技術員会

30日に、普及センターで第5回西諸県地区果樹技術員会が開催され、関係機関11名が参加しました。内容は、マンゴーのナンヨウキクイムシや果樹の園地台帳作成について情報を共有しました。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

6) 西諸県地区花き技術員会第4 回定例会の開催

23日に、風の丘ガーデン（小林市管内の鉢苗物生産者）にて第4回定例会を開催し、関係機関から9名が参加しました。

室内検討では、花から広がる好循環化に向けた活動内容や、共進会の推薦等の検討などを行いました。

現地視察では、風の丘ガーデンで栽培されている秋苗物やプリンセチアについて生産者から説明をいただきました。

風の丘ガーデンのプリンセチアを各所属で展示し、管内の花のPRや販売促進、屋内での環境美化を図っていきます。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【苗生産の状況について説明を受ける技術員】



【風の丘ガーデンのプリンセチア】

7) JA えびの市管内における児湯地区営農振興協議会花き部会

キイチゴ視察研修の対応

31日に、JA えびの市管内のキイチゴ生産者のほ場で、児湯地区営農振興協議会花き部会5名の視察を受け入れ、生産者とJA えびの市の指導員とともに対応しました。

えびの市管内の生産状況やほ場概要を説明後は、生産者と関係機関による活発な意見交換がされました。



【えびの市の生産者との意見交換】

※この報告書では、JA みやざきこばやし地区本部を「JA こばやし地区」、
JA みやざきえびの市地区本部を「JA えびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

